【学校通信】

平成 30 年 2 月 21 日
第 34 号

西中の風

伊丹市立西中学校長
大西　規之

「若者たちの声」

～みなさんはどう考えますか～

教頭　吉田悦子

各新聞紙面には読者からの投稿欄があります。今日は学校で購読している神戸新聞の小・中・高生の声「若者BOX席」から、西中生にも考えてほしい内容の投稿を紹介します。

「時間の使い方を考えよう」

携帯を持ち始めてから私の生活はすごく変わりました。持っていなかったころは勉強に集中しており、あいた時間は家族との会話がほとんどでした。寝る時間も早く健康的に過ごせていました。

しかし最近は勉強していても携帯が横にあるとさわってしまいます。寝不足になることもあるし、外に出る機会も減りました。

買うときに「まだ早い」とお母さんに言われたけれど「みんな持っているからいいやん」と反抗してしまいました。そのとき素直に「わかった」と言っていればこんな生活にはなっていなかったと思います　。

「みんなもやっているから」「みんなも持っているから」など、みんなと合わせる必要はないんだとあらためて今思いました。

まだ私は時間の使い方を間違えていると思います。もう受験の真っただ中にいます。そんな状況で今なにをすべきかをもう一度しっかり考えて、生活に取り組んでいきたいと思います。

１４歳　中学生

■　年度末の学校評価（生徒分）では本校では１年生から３年生まですべての学年で携帯電話、スマートフォン等の所持率が９割を超えています。２８年度末の学校評価の結果でもお知らせしましたが、兵庫県立大学の研究では、スマートフォンなどでインターネットに長時間ふれている子どもほど日常的にイライラし、勉強への自信が無くなっており、犯罪に巻き込まれる危険性も高まるという結果が出ています。

この投稿者のように自らの気づきの中で「スマートフォン等の使い方」や、誰もに等しく与えられた１日２４時間という「時間の使い方」をみなさんにも見直してほしいものです。

「悔しい経験を忘れずに」

ぼくは野球部に入っていました。１年生から投手をしていましたがなかなか勝てませんでした。練習試合では負けたことがないけれど本番は硬くなって四球を出し点を取られる。毎試合がこの繰り返しでした。

家でも努力せずにいました。総合体育大会１ヶ月前、自分でも危機感をもち毎日走りました。でも長い距離とはいえず、今思えば自分に甘えていたと思います。

総体当日、２試合のうち１試合目の途中からマウンドに上がりました。制球にバラツキがあったもののなんとか抑えることができました。でもチームは負けました。

そして次の日は絶対負けられない試合でした。でも制球が乱れ足の筋を痛め思うような球を投げることができませんでした。悔しかったです。あのときもっと走り込んでいればと後悔しました。チームのみんなに申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

これから先この経験を忘れず、後悔しないよう努力をし続けたいです。



１５歳　中学生

「演奏直後の瞬間が好き」

吹奏楽部の練習は長い。毎日部活で、勉強や遊びなどは他の人ほど楽しんでいない。しんどい時もある。だけど一瞬でそれが全部吹き飛ぶ瞬間がある。コンクールだ。

他の人は金賞をもらったときや次の大会に進めたときというかもしれないが、ぼくは演奏が終わった後だ。演奏後の「やりきった感」と大きな拍手がもらえる。あの瞬間がとても好きだからだ。

演奏後はたいてい写真を撮影する。このときもみんないい顔をして、今までやってよかったと思える。だから演奏が終わった直後が好きだ。

長い時間一緒に練習するから、傷つけ合ったり、けんかをしたり、いろいろあるかもしれない。だけどこの瞬間のために今は頑張れる。

家族みたいに感じる仲間の笑顔を見るために、今を悔いのないように頑張る。仲間の笑顔がぼくの支えになっているから仲間を笑顔にしてあげたい。

１５歳　中学生

■　中学３年間の心身の成長を後押しするものの一つに「部活動」があります。二人の投稿者のように運動部、文化部にかかわらず、部活動をとおして得た経験や学びをぜひ日々の生活にいかして下さい。そしてみなさん一人ひとりの人生の糧になればと思います。

「土曜学習終了」

本年度の土曜学習が先週の土曜日（２月１７日）で終了しました。１２回の学習会での皆勤者は一人でした。年度当初に申し込みはしたものの、なかなか部活動や習い事で参加できなかった人も多く、来年度以降の検討課題として善処していきたいと思います。



解禁社は一人。。線施釉の去るらいのにおいても活以降の教育活動の改善に活かしていきたいと思います。詳しい結果は本校ホームページに棒グラフとともに掲載しておりますのでご覧ください。

（２）保護者アンケートより
①肯定的な意見の割合が、１２月の「学校診断」
　において７月よりアップした主な項目（％）
・進路のことについて相談する機会や場が設けられている。　＋５．１
・子どもは避難訓練に参加したことによって、防災
　以上の結果から、重点課題を①シラバスを活用した適切な評価、②教育相談の時間や個人ノート等を活用した生徒理解、③授業中における発言する場面の設定を行い、登校することが楽しくなるように取り組んで参ります。

～携帯電話、スマートフォンの使用について～

　今回の保護者アンケートでは「子どもに携帯電話、スマートフォン等を持たせている」という質問に対して、１２月は７月と比べて２．６ポイント増え、５２．８％となりました。また、「携帯、スマートフォン等の使用について親子で約束を決めて与えている」という質問に対しては、１２月は７月と比較して２ポイント増え、４６．７％となりました。携帯電話、スマートフォンを所持している生徒は少し増えましたが、約束を決めていただいているご家庭もそれに伴って増えている傾向が見られます。
　兵庫県立大学の研究では、スマートフォンなどでインターネットに長時間ふれている子どもほど日常的にイライラし、勉強への自信が無くなっており、犯罪に巻き込まれる危険性も高まるという結果が出ています。研究報告では、中学生でスマートフォンやゲーム機などを通じたネット接続時間が、「３時間以上」が２６．０％、「３時間未満」は６２．７％、「接続しない」は１１．２％でした。イライラすることの頻度を聞いた質問では、「よくある」を選んだのは、「３時間以上」が２２．４％、「３時間未満」が１５．１％、「接続しない」が１４．０％、勉強への自信を聞いた質問で「自信が無い」と答えたのは、「３時間以上」が３８．１％、「３時間未満」が２２．７％、「接続しない」が２２．０％でした。ネットで知り合った人と実際に会ったことがあるかを聞いた質問で「ある」と答えたのは「３時間以上」が１６．８％、「３時間未満」が６．４％でした。
　また、兵庫県では平成２８年４月１日に青少年愛護条例が次のように一部改正されました。
「何人も、青少年のインターネットの利用に伴う危険性、過度の利用による弊害等について認識し、インターネットの過度の利用等を防止するためのその利用の時間に関する事項やインターネットの利用に伴う危険等を防止するためのその利用の方法に関する事項について基準づくりが行われるよう、その支援に努めなければならないものとします」
　以上のことから、子どもが納得できるネット使用のルールを大人が関わりながらつくる必要があります。
　ご協力の程よろしくお願いします。